

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立戸室小学校

校長名 廣瀬 修一

厚木市教育委員会の基本目標		1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】		
学校教育目標		学校経営の方針		
「夢に向かって共に学び 心豊かにたくましく生きる 戸室の子」		「一人一人の学びを大切にするインクルーシブな学校創り」		
今年度の重点目標				
自律・尊重「選び、つなげ、やってみよう！」 自律：自分で考え、自分で行動できること 尊重：自分も周りの人も大切にし、折り合いをつけながら楽しく生活できること				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
「自分も人も大切にしながら、つながりをつくる力をはぐくむ」	2	<b>【年間】</b> スポーツフェスティバルなどの行事、戸室フェスティバルなどの児童会活動、掃除など <1・2学期> あいさつ（「ありがとう」「ごめんなさい」）を推進する <3学期> 今年度の振り返り 次年度に向けた準備	自己肯定感については、約89%の児童が「自分を大切にできている」と回答している。しかし、教職員の肯定的回答が後期に減少しており、時期的な多忙さや関わり方の変化が影響している可能性も考えられる。 相談体制については、「相談方法を知らない」と答えた児童がおり、周知の工夫が必要である。相談ポストの利用は一定数あったが、「知っている」だけでなく「利用しやすい」と感じられているかが課題である。 規範意識やあいさつについても、教職員の評価がやや下がった。「ありがとう」「ごめんなさい」などの言葉が形式的にならず、児童が自発的に伝えられる環境づくりが求められる。	次年度は、11月を一つの重点時期とし、自己肯定感を高める取組とポジティブな声かけの意識化を全校で発信していく。また、「自分を大切にすること」についても継続的に指導していく。 相談体制については、方法を改めて周知する。二次元コードの活用や相談ポストの充実など、児童にとって分かりやすく、利用しやすい形を整える。 生活面では、「じどうのやくそく」を明確にし、ルールを学ぶ機会を大切にする。 今後必要となるスキルとして、コミュニケーション能力の基礎から積み上げていく視点を大切にする。そのためにも、教職員自身がよい手本となる姿を示していくことを重視する。
「一人一人の児童が、自分に合った学びを選び自己調整する力をはぐくむ」	1	<b>【年間】</b> 授業実践、家庭学習 <1学期> 学びの選択肢（学習形態、個別最適・協働的な学び、ICTの効果的な活用）を提供するための見直しをもつ <2学期> 取組の焦点化・洗練化 <3学期> 取組の振り返り	家庭学習については、6年生はテスト前に自主的に計画を立てて取り組む姿が見られる。一方で、自分で考えることが難しい児童にはプリントを用意している。4年生では漢字学習を継続しつつ、選択肢を与えている。 「やらなければならないもの」として取り組んでいるだけになっていないか、主体的な学びにつながっているかという視点は今後の課題である。学校全体として、宿題をどのように位置付けるのか、目的を明確にしていく必要がある。	子どもたちが「できた」「分かった」と実感できるよう、教員が授業づくりを一層工夫していく必要がある。特に、ふりかえりが単なるまとめにとどまらず、次の学習につながるものとなるよう改善を図る。 今後もこの視点を意識して継続的に取り組んでいく。また、各学年・各学級の実践を積極的に情報共有し、よい取組を広げていく。 家庭学習については、低・中・高学年と段階を踏みながら、宿題や家庭学習に主体的に取り組める力を育てていく方向で検討していく。

<p>「児童が健康や安全、体力向上に関する知識を身に付け、その知識から自分に必要なこと、できることを選び行動する力をはぐむ」</p>	<p>2・3</p>	<p>&lt;1学期&gt; スポーツフェスティバルの計画・実施・(次年度に向けた)反省</p> <p>&lt;2・3学期&gt; 安全に関する訓練の実施</p>	<p>シェイクアウト訓練や不審者対応訓練を休み時間に実施したことで、より実践に近い形となり、児童が自身の退避行動を具体的に振り返ることができた様子が見えてくる。</p> <p>取組の継続により、行動が少しずつ習慣化している児童も増えてきている。一方で、今後も継続していくためには、形骸化や慣れを防ぐ工夫が必要である。</p> <p>安全に対する意識がやや低下しているという結果も見られたが、意識的に行動できている児童も多い。引き続き、実感を伴う訓練を通して、安全意識の向上を図っていくことが重要である。</p>	<p>災害時や非常時の映像資料を活用し、その場面での自分の行動を具体的にイメージできるようにする。また、校内の安全な場所を可視化し、掲示することで、日常的に意識できる環境を整える。</p> <p>取組が形骸化しないよう、カードや活動方法を工夫し、児童が継続して意欲的に取り組めるようにする。あわせて、安全に関する行動や取組の価値付けを丁寧に行う。</p> <p>引き続き、交通安全教室や登下校指導を実施し、児童の安全への意識を継続的に高めていく。</p>
<p>学校運営協議会・PTAを起点とした地域・保護者との連携</p>	<p>3</p>	<p>&lt;年間&gt; 学校だよりやホームページ、PTA活動、ボランティア等を通して、学校や子どもたちの様子を知らせる。</p> <p>地域の力を取り入れたり、地域とのつながりを意識して学習を進める。</p>	<p>各学年の遠足や宿泊行事、50周年バースデーパーティー等、大きな行事があったのでホームページの閲覧者数が増えた。</p> <p>各学年の学習などにおいて、講師やアドバイザー、人材紹介などの面で地域とのつながりをつくることができた。</p>	<p>ホームページは好評であるが、次年度以降は掲載方法の変更の可能性もある。児童の様子を写真で伝える場合は、保護者連絡ツールの配信やパスワード付きページでの発信など、情報管理の在り方を検討していく必要がある。</p> <p>学習については、引き続き「つながり」を意識した計画を進めていく。長期的なねらいをもつとともに、短・中期的な視点でもPDCAサイクルを実践できるよう、学年内で確認する機会を設ける。</p> <p>児童指導については、学年間のみならずチームとして対応できていた。今後も細かな内容を含め、丁寧な情報共有体制を継続していく。</p>

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

挨拶については、自発的に行う児童が少ない現状があり、教職員が笑顔で手本を示すなど、雰囲気づくりを大切にしていこう。学校で相談できないと感じている児童も一定数おり、相談タイムの設定など、安心して話せる環境づくりを進める必要がある。

学年による発達差も大きく、数値だけでは見えない実態もある。「自分を大切にしているか」など気になる項目は、学年ごとに丁寧に分析してほしい。全体として方向性は適切であり、日常の丁寧な関わりを継続することが重要である。

4・5年生の取組では、児童が主体的に活動する姿が見られた。一方で、アンケート設問が漠然としており、教員の取組が十分に反映されていない可能性があるため、内容の焦点化が必要である。児童アンケートは発達段階や自己評価の捉え方による影響も大きく、特に低学年は丁寧に読み取る必要がある。振り返りの充実や家庭学習との関連付けを進め、主体的な学びにつなげていく。

教員間の交流や研究授業を大切に、方向性を共有しながら授業改善を図る。不登校やオンライン学習への対応についても、学校としての取組を整理し、丁寧に発信していく。

スポーツフェスティバルは今年度の大きな変更点であったが、保護者評価は十分とは言えなかった。事前の説明や教職員間の共通理解が不足していた点が課題である。一方で、新たな取組には一定の違和感が生じることも踏まえ、見えた課題を次年度に生かし、より良い形へと改善していくことが重要である。体力低下の傾向も見られる中、行事の工夫や委員会活動(「逃走中」など)のような主体的な取組を広げていくことが期待される。

安全面については、学校では概ね守られているが、地域や家庭での意識向上が課題である。防災訓練への保護者参加や役割分担の明確化など、家庭・地域と連携した取組を進めていく。「戸室っ子カード」の実施にあたっては、開始時の共通理解を丁寧に図る。

## 今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

学校重点目標として定めた「自律・尊重『選び、つなぎ、やってみよう』」については、生活科と総合的な学習の時間を中心に、全教職員が意識した取組となっている。児童の自律と尊重を育て、どのような児童に育てていくのか、どのような仕掛けをしていくのかと手探りの中、様々な活動を進めてきた。

大きな変化となったスポーツフェスティバルについては、保護者から様々な意見をいただいた。学校教育への意識の高さを感じるとともに、変化することの周知の大切さを感じた。

次年度は、さらにより良い学校づくりをめざし、学校評価をもとに、教職員、学校運営協議会と共に教育活動を再検討し、学校目標に向かって取り組んでいく。

特に次の内容についてはより充実させていきたい。

- ・異学年の交流や挨拶の推進
- ・教師の学びの場の設定、学びを選び振り返る機会の設定。
- ・防災教育の機会の工夫、校内及び校外の安全教育